

2020年度後期 講義概要

授業科目名	内分泌・代謝系
主担当教員名	前川 聡
配当学年 等	医学科3年
学習目標	<p>内分泌代謝系講義では、外的環境に反応して生体の機能を調節する、情報伝達系としてのホルモン分泌及びその作用の異常をひき起こす内分泌疾患、生活習慣と密接に関連した糖、脂質、アミノ酸など栄養素の摂取・貯蔵の過不足に伴う疾患としての代謝性疾患を学習する。内分泌性疾患では、外界刺激に対する情報伝達系としてのホルモンの働き、過剰分泌と分泌不全、作用不全、腫瘍などに伴う疾患について学習する。これら内分泌代謝性疾患発症の背景には、遺伝的因子と環境因子が存在するが、分子遺伝学、個人の遺伝子特性を同定し、その情報を診断や治療に生かして“個”の特性に応じた治療を検討するというオーダーメイド医療の必要性が叫ばれている。更にこれら疾患の発症抑制には、生活習慣としての栄養、運動、休養、ストレス解除などの指導、教育が臨床上重要な視点となる。本学習課程を通じてこれら代謝性疾患管理の基礎を学習する予定である。</p> <p>全体で、コア・カリキュラムの到達目標を達成できるように講義を行う。</p>
授業概要	<p>内分泌代謝性疾患に関して以下のような内容について学習し、その適切な診断、治療、予後判定、予防のための健康教育、薬物の副作用を理解する。</p> <p>内科、外科、小児科、脳神経外科、泌尿器科、放射線科、病理が合同で講義を担当し、幅広く学習する。</p>

授業内容

年月日(曜)	時限	担当教員	項目	内容	課題 有・無	授業形式 (原則、対面。)
令和3年1月4日(月)	1	前川 聡	内分泌・代謝学総論	ホルモン情報伝達、症候学、機能検査		対面
令和3年1月4日(月)	2	前川 聡	視床下部・下垂体(1)	下垂体前葉		対面
令和3年1月4日(月)	3	椎野 顯彦	内分泌外科	視床下部、下垂体		対面
令和3年1月5日(火)	1	佐藤 大介	視床下部・下垂体(2)	下垂体後葉		対面
令和3年1月5日(火)	2	藤田 征弘	脂質異常症(1)	病態、診断、治療		対面
令和3年1月5日(火)	3	斯波 真理子	脂質異常症(2)	家族性高コレステロール血症		対面
令和3年1月5日(火)	4	藤田 征弘	高尿酸血症、ビタミン欠乏症	病態、診断、治療		対面
令和3年1月6日(水)	1	森野 勝太郎	代謝総論	メタボリック症候群/サルコペニア		対面
令和3年1月6日(水)	2	前川 聡	糖尿病(1)	総論(病因・病態・診断)		対面
令和3年1月6日(水)	3	前川 聡	糖尿病(2)	治療		対面
令和3年1月6日(水)	4	森野 勝太郎	甲状腺	機能亢進症・低下症		対面
令和3年1月6日(水)	5	卯木 智	副甲状腺・骨代謝	Ca・P代謝・骨粗鬆症/骨軟化症		対面
令和3年1月7日(木)	1	前野 恭宏	糖尿病(3)	合併症(細小血管・大血管)		対面
令和3年1月7日(木)	2	卯木 智	副腎(1)	クッシング症候群/アルドステロン症		対面
令和3年1月7日(木)	3	卯木 智	副腎(2)	褐色細胞腫/副腎不全		対面
令和3年1月7日(木)	4	仲山 美沙子	内分泌病理学	病理診断		対面
令和3年1月8日(金)	1	上仁 数義	性分化	ホルモン異常、染色体・遺伝子異常		対面
令和3年1月8日(金)	2	高田 政彦	内分泌画像診断	X線診断学、MRI、RI		対面
令和3年1月8日(金)	3	卯木 智	内分泌腫瘍・MEN	膵内分泌腫瘍/MEN		対面
令和3年1月8日(金)	4	佐々木 雅也	栄養治療学総論	評価と治療		対面
令和3年1月12日(火)	1	松井 克之	小児内分泌代謝疾患	インスリン関連疾患		対面

令和3年1月12日（火）	2	島津 章	内分泌特論	内分泌代謝疾患治療の考え方		対面
令和3年1月12日（火）	3	吉田 哲也	副腎外科	腹腔鏡手術		対面
令和3年1月12日（火）	4	山本 寛	肥満外科治療	メタボリックサージェリー		対面
授業形式・ 視聴覚機器の利用						
評価方法	系統別講義に関する評価については試験を行う。試験問題は基本的に学習した内容のレベルに即した試験問題とし、各講義からまんべんなく出題する。必要な知識に達していない学生については再試験を行う。					
教科書・ 参考文献	<p>内科学を学習する上で、これまで学んできた解剖・生理・生化学・病理・薬理などの基礎知識を有機的に結び付けて、病態を把握し、鑑別することが重要である。そのためには、内科学の教科書で全体を一通り勉強することが最低限必要である。Harrison's Principle of Internal Medicineなどがあるが、卒後は必然的に英語の医学論文を読む必要に迫られるので、学生時代から英語の内科学書に慣れ親しんでおくのが賢明と思われる。</p> <p>1) 内科学 Harrison's Principle of Internal Medicine (McGraw-Hill) 内科学の標準教科書</p> <p>2) 代謝学 Joslin's Diabetes Mellitus : 糖尿病学に関する世界的名著である。糖尿病専門医が使っている。</p> <p>3) 内分泌学 Williams Textbook of Endocrinology(Saunders) DeGroot :Endocrinology vol. I - III. (Saunders) 本格的な内分泌学の教科書 Francis S. Greenspan : Basic and Clinical Endocrinology - (LANGE) 価格の割に内容が豊富で良くまとまっている。</p>					
学生への メッセージ	<p>内分泌代謝学を理解するためには、これまで基礎医学で学んできた、解剖学、生理学、生化学、病理学、薬理学などの知識を統合することが必要です。</p> <p>皆さんが系統的に構成された講義を聴講することで、これまで学んできた知識を復習し、新たな知見を学び、断片的な知識を統合させて、総合的な理解を得られることを期待します。</p>					